

## 1. 事業実施主体の概要：「県産材販路開拓協議会」

平成18年に設立した長野県内の製材工場、木材販売業、家具製造業、建具製造業、外構材製造業など木材関連企業23社による任意企業団体で、県内外において県産材の販路開拓を連携して行うことを目的とし、首都圏在住の建築士を主体とする県産材販路開拓員44名（信州の木マーケティングレップ）との協同製品開発、県産材住宅への木材提供、展示会、意見交換会および見学会の実施等の活動を行っている。

## 2. 事業概要

### 2.1. 事業項目と目的

#### ①信州ヒノキ材及び信州スギ材の木造枠組壁工法たて枠材開発に関する事業

信州スギ及び信州ヒノキの木造枠組壁工法たて枠材の開発を行う。丸太から製材、乾燥、加工までの品質管理データ収集、たて枠材の品質及び強度試験、壁せん断試験、接合部の許容応力試験を行い、生産可能なたて枠材の性能確認と、品質が安定したたて枠材供給の確立を目指す。

#### ②信州ヒノキ材及び信州スギ材のたて枠材による実証検証に関する事業

開発した信州スギ及び信州ヒノキの木造枠組壁工法用たて枠材を、構造計算を行った住宅に使用し、施工性及び施工後の品質検証を行う。

### 2.2 実施体制

事業は試験検証委員会と住宅検証委員会を設置し実施した。たて枠材の生産は、長野県内から伐採したスギとヒノキ材を県産材販路開拓協議会会員企業6社が行い、たて枠材試験は長野県林業総合センターで行った。

### 2.3 事業実施内容

#### ①信州ヒノキ材及び信州スギ材の木造枠組壁工法たて枠材開発に関する事業

- ・たて枠材生産用の丸太計測と、製材、乾燥、仕上げ加工を一貫して各6社が行った。
- ・試験用のたて枠材は、スギとヒノキ各4mの丸太200本から各1200本を生産した。
- ・長野県林業総合センターにて、スギとヒノキ各1200本の試験体を枠組壁工法構造用製材の日本農林規格による品質検査を行い、等級区分した。
- ・等級区分した試験体について、曲げ試験、引張り試験、圧縮試験、めり込み試験、せん断試験、全乾含水率検査、壁せん断試験、接合部の許容応力試験を実施した。

#### ②信州ヒノキ材及び信州スギ材のたて枠材による実証検証に関する事業

- ・ヒノキ、スギ材たて枠材を各3mで2300本生産し、全数たて振動法によるヤング係数計測と品質検査を行った。
- ・たて枠を実証検証する住宅（5棟）に使用し、住宅検証委員会及び一般ユーザーにおける施工検証を行った。
- ・本事業の取組みについて一般ユーザーを対象に説明会を行い、需要調査を行った。